

## 2024年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年10月11日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東  
コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 直樹  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 齊藤 洋介 (TEL) 03-5766-9870  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年11月期第3四半期の連結業績(2023年12月1日~2024年8月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2024年11月期第3四半期	1,044	74.8	△264	—	△264	—	△271	—
2023年11月期第3四半期	597	△75.5	△167	—	△126	—	7	△97.0

(注) 包括利益 2024年11月期第3四半期 △382百万円(－％) 2023年11月期第3四半期 △184百万円(－％)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年11月期第3四半期	△9.07	—
2023年11月期第3四半期	0.26	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2024年11月期第3四半期	5,652	4,082	72.1
2023年11月期	3,080	2,961	96.0

(参考) 自己資本 2024年11月期第3四半期 4,074百万円 2023年11月期 2,955百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年11月期	—	0.00	—	—	—
2024年11月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年11月期の連結業績予想(2023年12月1日~2024年11月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,517	75.1	159	—	169	—	153	—	5.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 2社(社名) 株式会社ケーエスピー、株式会社スケブ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年11月期3Q	38,114,227株	2023年11月期	27,301,871株
② 期末自己株式数	2024年11月期3Q	125,816株	2023年11月期	125,816株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年11月期3Q	29,952,403株	2023年11月期3Q	27,176,055株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	12
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、欧米・中国経済の先行き不安、さらには物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動などにより、依然として不透明な状況が続いております。

このような事業環境において、当社グループでは、2023年4月に中期経営計画を策定し、新たなネクスグループに生まれ変わるために、成長ドライバーとなる事業の拡大として、メタバース・デジタルコンテンツ事業の拡大、M&Aによる収益力の強化に向けて取り組みを進めております。

2024年7月には、当社を株式交換完全親会社、株式会社スケブ（以下「スケブ」）を株式交換完全子会社とする株式交換を実施することで完全子会社化いたしました。

スケブは、国内外のクライアントから日本のクリエイターに対して「イラスト」「コミック」「ボイス」「テキスト」「ムービー」「ミュージック」「アドバイス」の7つのジャンルから有償でリクエストすることができるコミッション<sup>\*1</sup> プラットフォーム『Skeb』を運営しております。

\*1 コミッションとは、クリエイター(創作者)にクライアント(依頼者)が作品制作を有償で依頼することです。

2018年のサービス開始以降、クリエイターと、ファンであるクライアント、両者からの支持を集め、2024年7月にはクリエイターを含めた総登録者数は331万人、月間取引最高額が6億円を超えるまでに成長しております。

さらに、2022年のデジタルコンテンツ産業の市場規模は、10兆1,545億円(前年比104.7%)と前年を上回り、順調な成長を遂げており、コンテンツ市場全体に占めるデジタルコンテンツの割合は76.5%と4分の3を超える規模となっております(一般財団法人デジタルコンテンツ協会『デジタルコンテンツ白書2023』)。加えて、国内クリエイターエコノミーの市場規模は1兆6,552億円で、前年比21.9%増となっており、市場拡大の背景には、ユーザーとクリエイターの繋がりを強化するサービスが増加し、クリエイター個人への課金を促進したこと、VTuber関連や音声配信サービスなどの新興サービスが浸透し、市場の成長をけん引したことが挙げられております(一般社団法人クリエイターエコノミー協会『2023年版国内クリエイターエコノミー調査結果』)。

本株式交換により当社は、注力するデジタルコンテンツ事業の拡大と、既存のメタバース・デジタルコンテンツ事業とのシナジーによる事業成長を目指してまいります。

また、2024年5月1日付で連結子会社化した株式会社ケーエスピー(以下「ケーエスピー」)に関して、コロナ禍においても安定した売上を維持しており、今後も更なる成長が期待できることから、主力事業の一層の強化、並びに収益軸の新たな柱となることを期待して、積極的な経営資源の配分を行っております。今回、当社グループ全体に占める売上高の割合、事業構造の変化やケーエスピーの将来性等を鑑みて、ケーエスピーの事業を「ソリューション事業」という新たなセグメントとして開示することといたしました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間の業績について、売上高においては、1,044百万円(対前期比74.8%増)となりました。それに伴い、営業損失は264百万円(前期は営業損失167百万円)、経常損失は264百万円(前期は経常損失126百万円)、税金等調整前四半期純損失は255百万円(前期は税金等調整前四半期純利益13百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は271百万円(前期は親会社株主に帰属する四半期純利益7百万円)となりました。

なお、通期の業績については、前述したケーエスピー及びスケブの子会社化が当期の連結業績に与える影響を精査したうえで、公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示を行う予定であります。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

#### (メタバース・デジタルコンテンツ事業)

株式会社実業之日本デジタルは、当社の主力商品である『静かなるドン(作者・新田たつお)』を中心とした多面的な展開が、引き続き効果を上げております。続編である『静かなるドンーもうひとつの最終章ー』第3巻が2024年7月に発売されたことで、第1巻、第2巻も順調に売上を伸ばし、さらに続編と連動した本編の販売キャンペーンも好調です。また、公式YouTubeチャンネルも2024年6月に登録者数が10万人を突破し、現在は11万2千人と

伸び続けており（2024年9月19日現在）、新規読者の獲得に繋がっております。

さらに、中山七里著『嗤う淑女』シリーズ、伊兼源太郎著『警視庁監察ファイル』シリーズが実写映像化されるなど、文芸作品も多くの注目を集めております。

スケブでは、提供するサービス『Skeb』で利用できるSkebポイントのチャージ方法に、新たにクレジットカードが加わりました。これにより、Skebポイントのチャージ方法は、クレジットカード、銀行振込、コンビニ決済、Pay-easy、au PAY、Alipay、WeChat Pay、Kakao Pay、GCash、DANA、Touch'n Go eWalletから選ぶことが可能となり、ユーザビリティが高まることが期待できます。総登録者数も338万人（2024年10月2日現在）を超え、更なる成長を目指してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は148百万円(対前期比34.5%増)、営業利益は20百万円(前期は営業損失1百万円)となりました。

#### (IoT関連事業)

株式会社ネクスは、培ってきた自動車テレマティクスをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースに「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなサービスの提供を目指しております。

AIコンピューティングの分野で様々なプラットフォームを提供しているNVIDIA Corporationが提供するGPU（画像処理やディープラーニングに不可欠な並列演算処理を行う演算装置）を利用したリアルタイム画像認識技術と、マルチキャリア対応の高速モバイル通信技術を搭載した、NCXX AI BOX「AIX-01NX」は、各通信事業者との動作確認を進めるとともに、AIソリューションパートナー及び技術パートナーとの共創によるビジネス機会の拡大を進めております。

エッジAIによる映像分析は、店舗でのリテールテックや空港等でのヒートマップ解析、侵入検知といった屋内利用から、公共空間や事業所内の屋外での人流解析、交通量調査、監視カメラなどの屋外ソリューションにまで活用範囲が拡大して利用されていることから、防塵・防水機能のほか、FANレス化することで耐久性を向上し、電源ユニットの搭載やPoE機能を実装した屋外用拡張ボックスを開発しており、2024年秋に提供を開始します。「AIX-01NX」を屋外用拡張ボックスと組み合わせることによって、需要が拡大している公共空間や事業所の屋外における人流解析、交通量調査、監視カメラなどの屋外ソリューションに活用いただけることが期待できます。

#### 【屋外用拡張ボックス活用事例】



<顧客属性分析、購買分析、防犯>



<混雑状況や動線の把握>



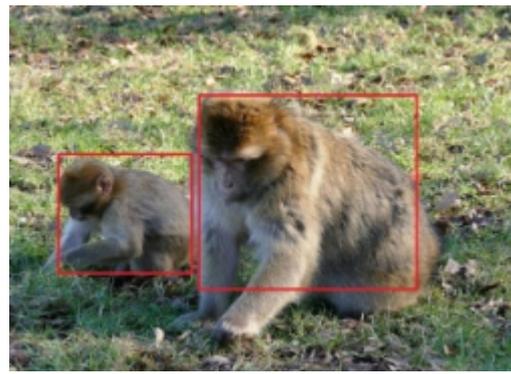
<混雑状況や動線の把握、防犯>



<駐車場の利用状況の把握、防犯>



<建設現場における監視、危険検知>

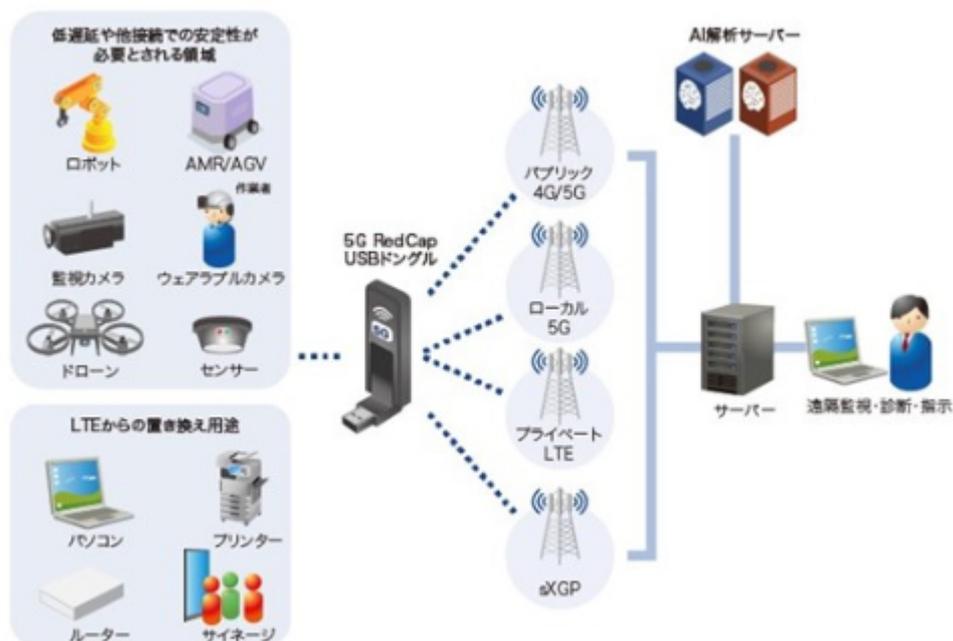


<害獣の検知、発報>

データ通信端末につきましては、5G Phase 2規格となる3GPP Release 16に対応し、Wi-Fi、Ethernetを搭載したバッテリーレスのルーター・モデムとなる、5Gデータ端末「UNX-05G」が、NTT docomoとの相互接続性試験(IOT)を完了しました。5Gは、LTEと比べて超高速・大容量な通信で多数同時接続、超低遅延を実現するもので、現在、本格導入に向けて、ローカル5Gでは集合住宅向け固定インターネット接続サービス、工場設備の遠隔監視、展示会会場のネットワークインフラでの導入試験が進んでおります。また、パブリック5Gでは、5Gのエリアの拡大に伴い、自動運転やAIロボットソリューションの遠隔操縦、リモートワークブースでの活用、ライブ配信向けの通信端末として導入が期待されております。今後、5Gフル機能が利用できる5G SA(Standalone) \*2サービスのエリア拡大に伴い、5G SAの特徴として、各サービスに応じてネットワークの各種リソースを仮想的に分割し、複数の独立したネットワークを構築可能なネットワークスライシングが可能となります。これらの法人向けのサービスにおいては、ネットワークと適切な接続がされているかを確認しておくことが重要ですが、相互接続性試験により網接続による問題を未然に抽出・解消することができます。また、サービスによっては相互接続性試験の通過が条件になることがあるため、法人向けの回線サービスの選択肢の広がりとともに、今回株式会社KDDIに加え新たに株式会社NTTドコモとの相互接続試験完了により、より多くのお客様に端末をご利用いただけることが期待できます。

\*2 「5G SA(Standalone)」とは、コア設備や基地局なども含めて5G専用の技術と設備で構成した5Gサービスです。

また、5Gの特徴である「低遅延」「多数端末との接続」をそのままに、通信速度をLTEのCat.4レベル(下り150Mbps程度)に機能を抑えた、AI/IoT向け通信規格「5G RedCap」に対応するUSB dongle型データ端末の開発に着手いたしました。コストやサイズ、消費電力の低減が可能となることでLTEから5Gへのリプレースが容易となり、さらに5Gで得られるネットワークスライシングや低遅延などの機能と組み合わせることによって、センサーネットワーク、AMR(自動搬送ロボット)を含むAIロボットソリューション、AIカメラ、ドローン、サイネージ、ウェアラブルカメラなど、これまでLTEでは不十分であったユースケースでもご利用いただけることが期待できます。

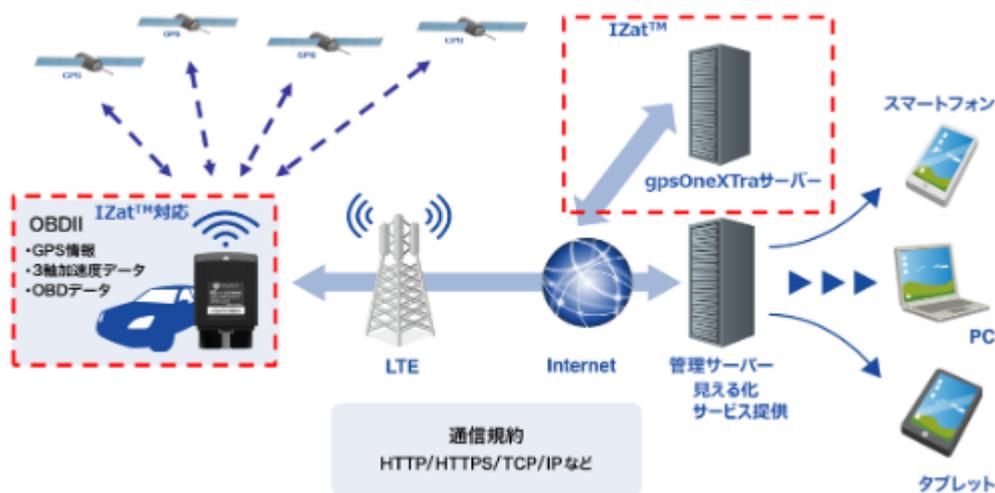


<5G RedCap対応USB Dongle型データ端末 利用シーン>

テレマティクスにつきましては、NTT docomo/KDDI/SoftBankの国内の主なLTE周波数や、みちびき（準天頂衛星システム）など5方式のGNSS<sup>\*3</sup>に対応し、より多くの衛星測位システムを使うことで、ビルや樹木などで視界が狭くなる都市部や山間部においても測位の安定性が向上したOBD II型データ収集ユニット「GX700NC」において、位置情報取得技術のIZatTM<sup>\*4</sup>機能の対応バージョンの提供を開始しました。IZatTM機能を活用することで、従来衛星測位の弱点であった地下駐車場からの利用や、衛星が補足しづらい場所（陸橋の下など）での利用において、測位時間の短縮、測位精度の向上が見込まれます。法的規制強化と車両管理業務の効率化、ドライバーの減少・高齢化など市場を取り巻く社会環境の影響で、需要が増加傾向にあるクラウド型車両管理・動態管理システムにおいて市場を確保しており、今後も、新車などの新しい型式への適合や、排気ガス測定・管理やEV車の充電・電費・残量管理などのSDGsへの取り組みなどにも活用の範囲を拡充してまいります。

\*3 「GNSS」とは「Global Navigation Satellite System（全球測位衛星システム）」の略で、GPS、GLONASS、Galileo、準天頂衛星（QZSS）等の衛星測位システムの総称です。

\*4 IZatTMとは、Qualcomm が位置情報取得の機能向上のために開発した方式です。



<IZat構成イメージ>

農業ICT事業（NCXX FARM）では、農作物の生産、加工、販売を行う6次産業化事業において、引き続きスーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の生産、販売を行っております。また、加工品としてセミドライゴールデンベリー、2024年には新商品としてクラフト炭酸リキュール、「GOLDEN BERRYプレミアムアイス」などの販売も行っております。

特許農法による化学的土壌マネジメント+ICTシステムによるデジタル管理のパッケージ販売を行うフランチャイズ事業では、自社試験圃場での栽培実績をもとに、自社独自の特許農法（多段式ポット）とICTシステムの提供に加えて、お客様の要望に沿った多種多様な農法・システム・農業関連製品の提供を行う農業総合コンサルティングサービスを展開しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は456百万円（対前期比38.7%増）、営業利益は20百万円（対前期比208.9%）となりました。

#### （ソリューション事業）

ケーエスピーは、当第3四半期連結累計期間におけるアクティブな販売先顧客社数として、211社への販売を継続的に行っております（前年同期比111%）。

また、当第3四半期連結会計期間におきましては、商社機能を活かして、顧客のニーズとウォンツをさらに満たした新アイテムの取扱いを増やし、それらの提案・販売をフックとした、新たな顧客層の獲得を積極的に行った結果、従来の販売先層としては少なかった、ラグジュアリー及びハイエンドなホテルとの口座も増やすことができました。その結果、従来から取り扱っている幅広い継続性の高いアイテムのクロスセルも強化することによって、取引社数の拡大だけでなく、1社あたりの販売金額の拡大も進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は325百万円、営業利益は21百万円となりました。

#### （暗号資産・ブロックチェーン事業）

本事業では、NCXC（ネクスコイン）を利用したサービスの向上、NCXCの流通促進、NCXC保有者の拡大を通じたNCXC経済圏の拡大を目指し、価値向上に向けた取り組みを行っております。

NCXC GameFiプラットフォームの開発を行い、ゲーム会社とのアライアンスにより、世の中で既に実績を上げている他社ゲームタイトルを中心に、これらを簡単にPlay to Earnのゲームに転換することができるプラットフォームサービスの提供を目指しております。

また、暗号資産市場の動向と資金効率を踏まえた暗号資産の安定的な運用を行ってまいります。

なお、従来、活発な市場が存在しない暗号資産の評価損は、「売上高」にマイナス表示しておりましたが、第2四半期連結累計期間より、「売上原価」に含めて表示する方法に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は0百万円（対前期比99.9%減）、営業損失は90百万円（前期は営業利益32百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、2,572百万円増加し、5,652百万円となりました。

この主な要因は、現金及び預金が928百万円増加、売掛金が128百万円増加、商品及び製品が47百万円増加、仕掛品が77百万円増加、預け金が286百万円増加、のれんが1,226百万円増加したものの、暗号資産が78百万円減少したことによります。

### (負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して、1,451百万円増加し、1,569百万円となりました。

この主な要因は、預り金が809百万円増加、買掛金が168百万円増加、社債<sup>\*5</sup>が50百万円増加、借入金<sup>\*6</sup>が262百万円増加したことによります。

\*5 1年内償還予定の社債、社債残高の合計です。

\*6 1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計です。

### (純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、1,121百万円増加し、4,082百万円となりました。

この主な要因は、資本剰余金が1,499百万円増加したものの、利益剰余金が270百万円減少、その他有価証券評価差額金が107百万円減少したことによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年1月18日の「2023年11月期 決算短信」から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	483,728	1,412,675
売掛金	206,603	334,683
商品及び製品	6,453	53,995
仕掛品	485,614	563,282
暗号資産	103,439	25,163
預け金	23,768	309,770
その他	88,093	69,410
貸倒引当金	△1,397	△1,800
流動資産合計	1,396,304	2,767,182
固定資産		
有形固定資産	157,423	152,040
無形固定資産		
のれん	807,237	2,033,288
その他	52,718	43,992
無形固定資産合計	859,956	2,077,280
投資その他の資産		
投資有価証券	633,532	535,881
長期貸付金	-	85,000
その他	32,934	35,131
投資その他の資産合計	666,466	656,013
固定資産合計	1,683,846	2,885,334
資産合計	3,080,151	5,652,516

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,769	173,129
1年内償還予定の社債	-	14,000
1年内返済予定の長期借入金	11,000	102,016
未払法人税等	17,964	50,703
契約負債	-	34,071
製品保証引当金	16,000	15,000
預り金	25,065	834,230
その他	32,667	129,157
流動負債合計	107,466	1,352,308
固定負債		
社債	-	36,000
長期借入金	-	171,140
その他	11,184	10,471
固定負債合計	11,184	217,611
負債合計	118,651	1,569,919
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	4,776,701	6,276,690
利益剰余金	△1,762,312	△2,032,666
自己株式	△66,515	△66,515
株主資本合計	2,957,873	4,187,508
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	△107,650
繰延ヘッジ損益	△1,965	△5,297
その他の包括利益累計額合計	△1,965	△112,947
新株予約権	5,240	7,695
非支配株主持分	351	340
純資産合計	2,961,499	4,082,597
負債純資産合計	3,080,151	5,652,516

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
売上高	597,279	1,044,255
売上原価	323,857	783,442
売上総利益	273,422	260,812
販売費及び一般管理費	441,321	524,835
営業損失(△)	△167,899	△264,022
営業外収益		
受取利息	656	174
受取配当金	18,997	0
為替差益	1,637	1,217
暗号資産売却益	16,984	520
雑収入	6,323	3,135
その他	3,377	4,272
営業外収益合計	47,976	9,321
営業外費用		
支払利息	758	1,586
持分法による投資損失	4,819	1,634
支払手数料	1,000	6,114
その他	39	11
営業外費用合計	6,618	9,347
経常損失(△)	△126,541	△264,048
特別利益		
固定資産売却益	-	0
投資有価証券売却益	134,633	6,340
新株予約権戻入益	7,745	1,903
特別利益合計	142,378	8,244
特別損失		
投資有価証券評価損	2,026	-
特別損失合計	2,026	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	13,810	△255,803
法人税、住民税及び事業税	6,736	15,876
法人税等合計	6,736	15,876
四半期純利益又は四半期純損失(△)	7,074	△271,680
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	7,074	△271,670

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	7,074	△271,680
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△197,438	△107,650
繰延ヘッジ損益	5,519	△3,332
その他の包括利益合計	△191,919	△110,983
四半期包括利益	△184,845	△382,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△184,845	△382,653
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△10

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年5月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社、株式会社ケーエスピーを株式交換完全子会社とする簡易株式交換を行い、第2四半期連結会計期間において資本剰余金が199百万円増加しております。

また、当社は2024年7月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社、株式会社スケブを株式交換完全子会社とする株式交換を行い、当第3四半期連結会計期間において資本剰余金が1,299百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が6,276百万円となっております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

当社グループは、暗号資産・ブロックチェーン事業において暗号資産への投資を行っております。従来、活発な市場が存在しない暗号資産の評価損については、「売上高」のマイナスとして計上しておりましたが、第2四半期連結会計期間より、「売上原価」に計上する方法に変更しております。

これは、事業運営の実態をより適切に経営成績に反映させるため、表示方法を変更するものであります。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、売上高に表示していた△64,621千円を売上原価に組み替えております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロックチ ェーン 事業	その他	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	329,320	110,381	125,247	32,329	597,279	—	597,279
外部顧客への売上高	329,320	110,381	125,247	32,329	597,279	—	597,279
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,000	—	—	199	18,199	△18,199	—
計	347,320	110,381	125,247	32,529	615,479	△18,199	597,279
セグメント利益又は損失(△)	6,744	△1,699	32,221	△3,657	33,608	△201,508	△167,899

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロック チェーン 事業	ソリュー ション事業	その他	計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	456,682	148,415	127	325,300	113,728	1,044,255	—	1,044,255
外部顧客への売上高	456,682	148,415	127	325,300	113,728	1,044,255	—	1,044,255
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,000	—	—	689	256	18,945	△18,945	—
計	474,682	148,415	127	325,989	113,985	1,063,200	△18,945	1,044,255
セグメント利益又は損失(△)	20,831	20,324	△90,646	21,048	△15,738	△44,181	△219,840	△264,022

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「注記事項(追加情報)(表示方法の変更)」に記載のとおり、従来、暗号資産・ブロックチェーン事業において保有する活発な市場が存在しない暗号資産の評価損については、「売上高」に計上しておりましたが、第2四半期連結会計期間から「売上原価」に計上する方法に変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても組み替えを行っております。

第2四半期連結会計期間より、株式会社ケーエスピーが連結子会社となったことに伴い、「ソリューション事業」を新たに報告セグメントに追加しております。これにより、当社の報告セグメントは、「IoT関連事業」「メタバース・デジタルコンテンツ事業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」「ソリューション事業」及び「その他」の5区分となりました。

また、当第3四半期連結会計期間より、株式会社スケブが連結子会社となったことに伴い、同社の事業は「メタバース・デジタルコンテンツ事業」に含めております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間より株式会社スケブが連結子会社となったことに伴い、「メタバース・デジタルコンテンツ事業」において、のれんが発生しております。

なお、当該事業による、のれんの増加額は1,302,225千円であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年8月31日)
減価償却費	11,013千円	17,277千円
のれんの償却額	73,385	84,661